

「情報的健康」実現に対する金銭的評価

—サービスに対する WTP の推計—

○高口鉄平 (Teppei Koguchi)、実積寿也 (Toshiya Jitsuzumi)

Keywords : キーワード1、キーワード2、キーワード3、キーワード4、キーワード5

1 目的

本研究の目的は、市場メカニズムによる「情報的健康」の実現可能性について、定量的に検討することである。

近年、フェイクニュース、フィルターバブル、エコーチェンバーといった問題が表出していることに対し、それらの存在を認識したうえで自身の興味を満たすような情報消費を目指す「情報的健康」概念が提唱されている（鳥海・山本 2022）。この概念ははまだ抽象的であるものの、健全な情報消費を実現するために検討に値する概念である。

ただし、現時点では概念の提唱に止まっており、具体的な実現方策が明確にはなっていない。そこで、本研究では、「情報的健康」を市場メカニズム、すなわち「情報的健康」に資するサービスの取引を通じて実現する可能性を定量的に検討する。

2 方法

本研究では、フェイクニュースを除去するアプリケーション、ニュースサイト上で提示されるニュースを自身でコントロールできるアプリケーション等を想定し、それらに対する個人の支払意思額（WTP）を推計する。

具体的には、一段階二肢選択方式の仮想評価法（CVM）による推計を行う。推計にあたっては、クラウドソーシングサービスを利用したアンケート調査を実施する。

3 結果

分析の結果、フェイクニュースの除去や、ニュースサイト上で提示されるニュースのコントロールに対する金銭的評価があきらかとなった。さらに、情報消費の健全さやリテラシーに対する主観といった要因が、金銭的評価に対して影響を与える可能性についても示唆を得た。

4 結論

本研究を通じて、第一に、「情報的健康」に対する個人の意識や評価を定量的に把握することができた。これは、今後の「情報的健康」概念の方向性、定義の明確化に資する知見といえる。

第二に、「情報的健康」実現の方策について、市場メカニズムの利用と政策的対応のバランスを検討する示唆を得た。これは、企業のインセンティブ設計や今後の法的議論に資する知見といえる。

【主要参考文献】

鳥海不二夫・山本龍彦（2022）『デジタル空間とどう向き合うか 情報的健康の実現をめざして』株式会社日経 BP・日本経済新聞出版（日経プレミアムシリーズ 478）